



平成 26 年 9 月 18 日
ストラスブール研究連絡センター

フランス国民教育・高等教育・研究省(MENESR)

●「ナジャット・ヴァロー＝ベルカセム氏、国民教育・高等教育・研究大臣に任命」

マニュエル・ヴァルス内閣改造に伴い、2014 年 8 月 26 日、ナジャット・ヴァロー＝ベルカセム氏が国民教育・高等教育・研究大臣に任命された。高等教育・研究担当大臣はジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ氏が留任する。ヴァロー＝ベルカセム氏は、2014 年 4 月-8 月 25 日に女性権利・都市・青少年・スポーツ大臣を務めた。フルール・ペルラン文化・通信大臣、エマニュエル・マクロン経済・産業・デジタル大臣と共に、30 代の人材が要職に就くことで、政府の新鮮さとダイナミックさを印象付けた。

・MENESR “Najat Vallaud-Belkacem, ministre de l'Éducation nationale, de l'Enseignement supérieur et de la Recherche”(2014 年 8 月 26 日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid81742/najat-vallaud-belkacem-ministre-de-l-education-nationale-de-l-enseignement-superieur-et-de-la-recherche.html>

・Le Monde 紙 “Mme Vallaud-Belkacem rejoint la cour des grands” (2014 年 8 月 28 日)

・在日フランス大使館 (2014 年 9 月 9 日) <http://www.ambafrance-jp.org/article7420>

●「上海大学ランキング 2014 フランスは 5 位」

上海大学ランキング 2014 年が発表された。本ランキングでは、世界各国の 17000 大学から上位 500 機関を選出している。今年、フランスからは 21 機関が選出され、内 4 機関が上位 100 位内にランクインし、昨年と同じ世界 5 位の地位を維持した。また、分野別では、数学が 3 位、物理学が 5 位、化学で 7 位、情報科学で 9 位につけた。これを受けて、ブノワ・アモン国民教育・高等教育・研究大臣とジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育・研究担当大臣は、上海大学ランキングの評価方法がフランスの大学や研究形態にとって不利であるにもかかわらず、昨年と同じ順位を維持し、フランスの安定さを示していると称えた。

ランクインした大学は以下のとおり

35 位 ピエール-マリー・キュリー(パリ第 6)大学(2013 年 37 位)

42 位 パリ南(オルセー・パリ第 11)大学(2013 年 39 位)

67 位 ENS パリ(2013 年 71 位)

95 位 ストラスブール大学(2013 年 97 位)

101-150 位 エクス-マルセイユ大学、グルノーブル・ジョゼフ-フーリエ大学、パリ-デイドロ(パリ第 7)大学

151-200 位 パリ-デカルト(パリ第 5) 大学

201-300 位 ボルドー大学、クロード-ベルナール(リヨン第 1) 大学、ポール-サバティエ(トゥールーズ第 3) 大学、ENS リヨン、ロレーヌ大学、モンペリエ第 2 大学

301-400 位 エコール・ポリテクニク、パリ-ドフィージュ大学、パリ市立工業物理化学高等専門大学校

401-500 位 オーヴェルニュ大学、パリ国立鉱業高等専門大学校、ニース-ソフィア・アンティポリス大学、レンヌ第 1 大学

・MENESR “Classement de Shanghai 2014: la France conserve sa 5e place mondiale” (2014 年 8 月 15 日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid81653/classement-de-shanghai-2014-la-france-conserve-sa-5e-place-mondiale.html>

・Le Monde 紙 “Les universités françaises maintiennent leur rang” (2014 年 8 月 17-18 日)

・DNA 紙 “L’université résumée en un chiffre ?” (2014 年 8 月 17 日)

●「2014 年新学期の学生生活環境」

新学期開始を目前に、ブノワ・アモン国民教育・高等教育・研究大臣とジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育・研究担当大臣は、学生の社会的状況の向上が政府の優先計画であることを強調した。具体的な内容としては、奨学金改革、登録料(授業料)値上げの制限、学生寮の優遇が挙げられる。

奨学金改革に関しては、年 1000 ユーロの奨学金を 7 万 7500 件新設すること、年 4000-5500 ユーロの手当金支給を 1000 件創設することを実施し、3 年間で合計 4 億 5800 万ユーロが投資される。

登録料値上げの制限に関しては、2014 年は、登録料の値上げ幅をここ 10 年間で最小にするとした。学生社会保障費を含めない登録料は、学部生で 184 ユーロ(2013 年より 1 ユーロ(0.55%) 値上げ)、修士で 256 ユーロ(2 ユーロ(0.79%) 値上げ)、博士で 391 ユーロ(3 ユーロ(0.77%) 値上げ)に留めた。

また、学生寮に関しては、5 年間で 4 万戸の学生寮建設を掲げている。

・MENESR “Les conditions de vie étudiante, priorité du Gouvernement à la rentrée 2014” (2014 年 8 月 17 日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid81658/les-conditions-de-vie-etudiante-priorite-du-gouvernement-a-la-rentree-2014.html>

●「学生用賃貸保証金の普及」

2014 年 9 月 8 日、ナジャット・ヴァロー＝ベルカセム国民教育・高等教育・研究大臣とジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育・研究担当大臣は、CROUS(学生厚生福利支援機関)パリとパリ市が

開催した学生の住居フォーラムの開会式を行った。両大臣は、学生の経済状況、家庭状況、国籍を問わず、保証人がいない学生すべてに対して学生賃貸保証金(CIé)を普及させることを発表した。

学生生活調査によると、民間住居に住む学生の16%が保証人を見つけるのに苦労するという。CIéの普及は、2013年の試行期間で学生のニーズに応えたと言える。その他、政府は学生寮の建設により、学生の居住環境向上を支援する。

CIéの利用条件は、家族・友人・銀行からの保証を受けられない28歳未満の学生、外国籍の博士課程の学生、または博士号を取得してから6ヶ月未満の外国籍のポスドクで研究所の正規研究員でない者となる。

・MENESR “Généralisation de la caution locative étudiante” (2014年9月8日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid82061/generalisation-de-la-caution-locative-etudiante.html>

●「Alim-Louis Benabid 氏、ラスカー臨床医学研究賞を受賞」

神経外科医の Alim-Louis Benabid 教授は、米国の Mahlon DeLong 氏と共に、2014年ラスカー臨床医学研究賞を受賞した。脳深部刺激療法の開発が評価されたもの。氏は、ジョゼフ・フーリエ大学名誉教授で、科学アカデミーのメンバーでもあり、1988-2006年には INSERM の「前臨床神経生物学」ユニットを率いていた。

・MENESR “Alim-Louis Benabid, prix Lasker 2014 pour la recherche médicale clinique” (2014年9月9日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid82073/alim-louis-benabid-prix-lasker-2014-pour-la-recherche-medicale-clinique.html>

フランス国民教育・高等教育・研究省(MENESR)・フランス国立科学研究センター(CNRS)

●「Artur Avila 氏、2014年フィールズ賞を受賞」

2014年8月13日、ソウルで行われた国際数学会議(IMC)で、Jussieu-Paris Rive Gauche 数学研究所の CNRS 研究ディレクターでブラジル系フランス人数学者の Artur Avila 氏(CNRS/パリ・ディドロ(パリ第7)大学/ピエール-マリー・キュリー(パリ第6)大学)がフィールズ賞を受賞した。同賞は、4年に1度、40歳以下の若手数学者に授与される名誉ある賞。氏は1979年生まれの35歳で、これまでも CNRS 銅賞、Salem 賞、欧州数学会賞、科学アカデミー Jacques Herbrand 大賞など、多数の名誉ある賞を受賞している。この受賞で1936年以来授与されてきた56のフィールズ賞のうち12がフランスに与えられたことになり、数学分野ではフランスは米国(13)につぐ、受賞者が多い国となる。

・MENESR“Le mathématicien franco-brésilien Artur Avila, médaille Fields 2014 ”(2014年8月13日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid81639/le-mathematicien-franco-bresilien-artur-avila-medaille-fields-2014.html>

・CNRS“Artur Avila, lauréat de la médaille Fields 2014”(2014年8月13日)

<http://www2.cnrs.fr/presse/communiqu/3691.htm>

フランス国立研究機構(ANR)

●「ロボット工学 Challenge ARGOS 国際チーム 5 件が選出」

Challenge ARGOS は、地中や海中の炭化水素産出地で活躍するロボットの開発を目標として、総合石油エネルギー企業である TOTAL が資金援助し ANR が実施するプロジェクトである。今回、31 件の応募プロジェクトの中から 5 件が採用された。採用されたのは、オーストリア、スペイン、フランス、日本、スイスのチームのもので、これらのチームには最大 60 万ユーロの資金が提供される。2015 年夏からは、引き続いて 3 つのコンペが開催され、ロボットの機能実験が行われる。

・ANR “ Challenge ARGOS en robotique : 5 équipes internationales sélectionnées ”(2014年8月5日)

<http://www.agence-nationale-recherche.fr/informations/actualites/detail/challenge-argos-en-robotique-5-equipes-internationales-selectionnees/>

フランス国立情報学自動制御研究所(INRIA)

●「Valérie Issarny 氏、レジオンドヌール勲章を受章」

2014年6月23日、Valérie Issarny 氏(Inria Paris-Rocquencourt)は、高等教育研究分野における、レジオンドヌールのシュヴァリエを受章した。氏は、Inria@SiliconValley プログラムの研究責任者を務めている。また、未来のインターネットに関する問題に取り組む ICT-FET Connect (Emergent Connectors for Eternal Software-intensive Networked Systems) プロジェクトに抜擢されている。

・INRIA “ Valérie Issarny reçoit la Légion d’honneur ”(2014年8月7日)

<http://www.inria.fr/centre/paris-rocquencourt/actualites/valerie-issarny-recoit-la-legion-d-honneur>

●「リール大学と北ヨーロッパの共同チーム」

Inria では、2002 年から、Inria のプロジェクトチームと世界中の研究チームとの協力強化のための「共同チーム」プログラムを実施しており、このたび、北ヨーロッパのチームとの共同チームが発足した。新チームは以下のとおり。

・英国ロンドン・キングスカレッジと Shacra プロジェクトチーム(リール第 1 大学)「リアルタイム有限要素法で制御される外科ソフトロボットの流体センサーと作動装置」

・オランダ・デルフト工科大学と Rmod プロジェクトチーム(リール第 1 大学)「アートコード審査ツールの状態改善」

・ベルギー・ブリュッセル自由大学(Vrije Universiteit Brussel)、ルクセンブルク大学と Dolphin プロジェクトチーム(リール第 1 大学)「不確実性がある環境下における多目的スケジューリング」

・INRIA “Nouvelles synergies de recherche entre Lille et l’Europe du Nord”(2014 年 9 月 5 日)

<http://www.inria.fr/centre/lille/actualites/nouvelles-synergies-de-recherche-entre-lille-et-l-europe-du-nord>

フランス各紙

●「Brigitte Kieffer 氏、ロリアル・ユネスコ女性科学賞受賞」

ストラスブール大学教授でマギル大学(カナダ ケベック州)ダグラス研究センターの研究ディレクターの Brigitte Kieffer 氏が、ロリアル・ユネスコ女性科学賞を受賞した。氏の「痛み、精神疾患、薬物中毒に関する脳メカニズムの理解についての研究」が評価された結果という。

・Strasbourg magazine “Comprendre pourquoi le cerveau est malade”(2014 年 9 月)

●「大学再編をめぐる議論」

フランスでは近年、大学再編が推進されてきた。今後は、大学・高等教育機関を 25 拠点に集約して、ガバナンスの再編を目指している。大学再編の推進は、フランスの高等教育機関の国際的競争力を高めること(上海大学ランキングでの順位向上等)が目的とされている。25 拠点のうち、20 拠点は、「大学・高等教育機関コミュニティ(Comue)」を形成する方法を採り、5 拠点はより拘束力の少ない「連合」の形を選択した。しかし、多くの大学の教職員の間では、これらの大学再編は、大学の運営をさらに複雑にし、財政削減のための手段でしかないという反対意見も多く、議論はさらに続きそうだ。

・Le Monde 紙 “Le paysage universitaire remodelé autour de vingt-cinq grands pôles”(2014 年 7 月 25 日)